

〔目的〕スーツ、ズボン、スカート等の服種では、裏地を使用するケースが多いため、これら服種の性能評価の一環として、裏地の性質、性能を考慮する必要があるものと考えられる。本研究では、裏地の性能評価のための基礎資料を得る目的で、キュプラ布を含む各種裏地試料の力学特性の測定及び基本風合い値の算出を行った。

〔方法〕試料として、キュプラ布3種、ポリエステル布3種、ポリエステル／キュプラ交織布2種、レーヨン1種の計9種の裏地を用いた。9種の布それぞれにつき生機及び仕上げ反、計18種を試料とした。各種力学特性の測定にはKES-FB測定システムを用いた。基本風合い値の算出には、布構造の面で比較的似通っていると思われる、婦人外衣用薄手布地用の変換式（KN-201-LDY式）を用いた。

〔結果〕裏地グループ及び婦人外衣用薄手布地グループそれぞれの各種特性値の分布について比較検討を行った。分布の様子が両グループ間で比較的似通っていた項目は、力学特性では、剪断特性（G, 2HG, 2HG5）、圧縮レジリエンス（RC）、表面摩擦及びその平均偏差（MIU, MMD）、基本風合いではKISHIMIであった。裏地グループの平均値が薄手布地グループの平均値を上回った項目は、引張りの線形性及びレジリエンス（LT, RT）、曲げ特性（B, 2HB）、及び、KOSHI, HARIであった。裏地グループの平均値が薄手布地グループの平均値より下にきた項目は、引張りエネルギー（WT）、圧縮の線形性及びエネルギー（LC, WC）、表面粗さ（SMD）、厚さ（T）、重さ（W）、及び、SHARI, FUKURAMI, SHINAYAKASAであった。さらに、生機と仕上げ反それぞれの測定結果を比較することにより、仕上げ加工による性質の変化が捉えられた。